

9. きょう土を開いた人々

(1) 井桁せきをつくる



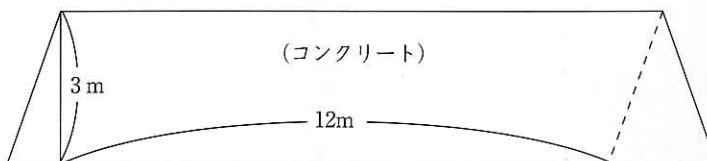
「せき」というのは、川につつみをきずき、水をため、そこから水を引き利用できるようにした所です。

▲井桁せき（現在）

このせきは、最近のものですが下のしゃしんの水路（入り口の穴）は昔の人がほったものです。今は使われていません。



▲江戸時代の井桁せき



最大取水量 138 ℓ
常時取水量 43 ℓ
(1秒間について)

- いつごろ
- だれによって
- どんな苦勞をして
つくられたのでしょうか。

- 今の上郷小学校の裏（南）
の水田で利用しています。
(9けんて8.3ha分)